

海況速報

平成 11 年度 第 4 号 (通算 No.70)

平成 11 年 10 月 29 日

北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

海洋環境部ホームページでもごらんになれます。

アドレス：<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kaiyou/index.htm>

10月上旬の海況

☆日本海海域

積丹半島沖暖水渦さらに発達

北海道西岸沖では、積丹半島西方沖の暖水渦が前回以降発達しながら西進しています。中心の 100m 層 10℃以上の範囲は前回より広がっています。これに伴い対馬暖流は暖水渦の沖側を大きく蛇行して流れています。観測ではとらえていませんが、衛星画像ではこの暖水渦のさらに西側にもう一つ暖水渦があるような表面水温の分布になっています。

水温について、各調査線毎に累年平均(*1)と比較すると、北緯 45 度 30 分線では、礼文島北西定点 (東経 140 度 53 分) で、表面 -1.6℃、50m 層 -2.0℃、100m 層 -1.3℃、200m 層 -0.8℃となっています。東経 141 度 25 分では、表面 -0.1℃、50m 層 +2.1℃、100m 層 +0.7℃となっています。北緯 44 度 30 分線では、天売焼尻島北西定点 (東経 141 度 15 分) で表面 +0.3℃、50m 層 +3.0℃、100m 層 +0.3℃となっています。東経 140 度 20 分では表面 -1.1℃、100m 層 -1.7℃、200m 層 -0.7℃となっています。北緯 43 度 30 分では、石狩湾湾口部 (東経 141 度 00 分) で表面 -0.5℃、50m 層 +5.1℃、積丹岬北西沖定点 (東経 140 度 20 分) で、表面 ±0.0℃、50m 層 +2.0℃、100m 層 -0.9℃、200m 層 -0.6℃となっています。北緯 42 度 30 分では、瀬棚沖もともと岸よりの定点 (東経 139 度 40 分) で、表面 -3.0℃、50m 層 -1.0℃、100m 層 -0.7℃、200m 層 -0.1℃となっています。北緯 41 度 30 分では、もともと岸よりの定点 (東経 139 度 50 分) で、表面 +0.6℃、50m 層 +2.4℃、100m 層 +0.3℃、200m 層 +0.1℃となっています。北緯 41 度 20 分の松前西方沖もともと岸よりの定点 (東経 140 度) では、表面 +0.4℃、50m 層 +2.4℃、100m 層 +0.4℃、200m 層 +0.8℃となっています。

余市における 8 月下旬以降 10 月中旬までの沿岸水温 (旬平均) は、平年値に比べ、9 月上旬から 9 月中旬は +2.2~+2.3℃で「非常に高い」でしたが、9 月下旬では +1.0℃、10 月中旬には +0.8℃となり「かなり高い」から「やや高い」となってきました。9 月中旬の平年偏差 +2.3℃は観測記録を更新する高い値となりました。

☆道東太平洋海域

大型暖水塊さらに北上

前回 (8 月) に道東沖にあった暖水塊 (中心: 200m 層 10℃以上) はさらに北上し、北縁が北緯 41 度 20 分まで達したようです。東経 144 度では、100m 層と 200m 層で北緯 41 度 30 分から北緯 42 度の間で温度差が前回より大きくなっています。親潮 (100m 層 5℃以下) の沖合域での範囲は前回とほぼ同じですが、道東沿岸部では昇温が進んでいます。

水温についてみると、道東沿岸 50m 層でもともと岸寄りとなる定点の水温は、厚岸沖 (北緯 42 度 55 分、東経 145 度 00 分) で 13.9℃ (累年平均比 +1.2℃、前年比 +0.1℃)、白糠沖 (北緯 42 度 45 分、東経 144 度 00 分) で 12.5℃ (累年平均比 +0.2℃、前年比 -0.9℃) となっています。50m 層ではありませんが、根室半島沖 (北緯 43 度 05 分、東経 145 度 45 分) の表面では、15.8℃ (累年平均比 +2.0℃、

前年比+2.4℃)と高くなっています。

☆道南太平洋海域

津軽暖流が渦モード

道南太平洋海域では、津軽暖流は前回に引き続き渦モード(*2)となっています。100m層10℃以上の等温線が、北へは浦河南西沖観測線上で北緯42度以北に、東へは東経143度以東へ張り出しており、道東沖の暖水塊と接しています。100m以浅では海域全体に津軽暖流の影響が強く現れていますが、200m層では日高沿岸に親潮の影響の強い水温4℃以下の水が分布しています。このことから、道東の沿岸流の一部は襟裳岬をこえて噴火湾方面へ沿岸部を流れているようです。

水温について、各調査線毎に累年平均(*1)と比較すると、浦河南西方観測線では、浦河沿岸の定点(北緯42度10分)で表面-0.1℃、50m層+2.4℃、100m層+0.3℃となっています。白老南方観測線では、白老沿岸の定点(北緯42度20分)で表面で-0.5℃、50m層-0.5℃、100m層+0.3℃、200m層+0.8℃となっています。恵山岬東側定点(北緯41度50分)では、表面-0.2℃、50m層-0.9℃、100m層-1.4℃、200m層-0.5℃となっています。下北半島北側定点(北緯41度30分)では、表面±0.0℃、50m層+0.8℃、100m層+1.5℃、200m層+1.0℃となっています。

☆オホーツク海海域

東カラフト寒流接近中

表面及び50m層では宗谷海峡東部から知床岬沖までの沿岸に沿って宗谷暖流(ここでは例えば50m層水温で10℃以上の範囲)が明瞭に見られます。オホーツク海中冷水についてみると、50m層では浜頓別沖観測線と紋別沖観測線の沖合に水温0℃以下の水が見られます。また、同じく50m層の知床半島沖観測線の北緯45度10分には水温7℃以上の暖水が見られます。紋別沿岸部に水温の低い(塩分も低い)東カラフト寒流の先端部が表面から接近しているようです。

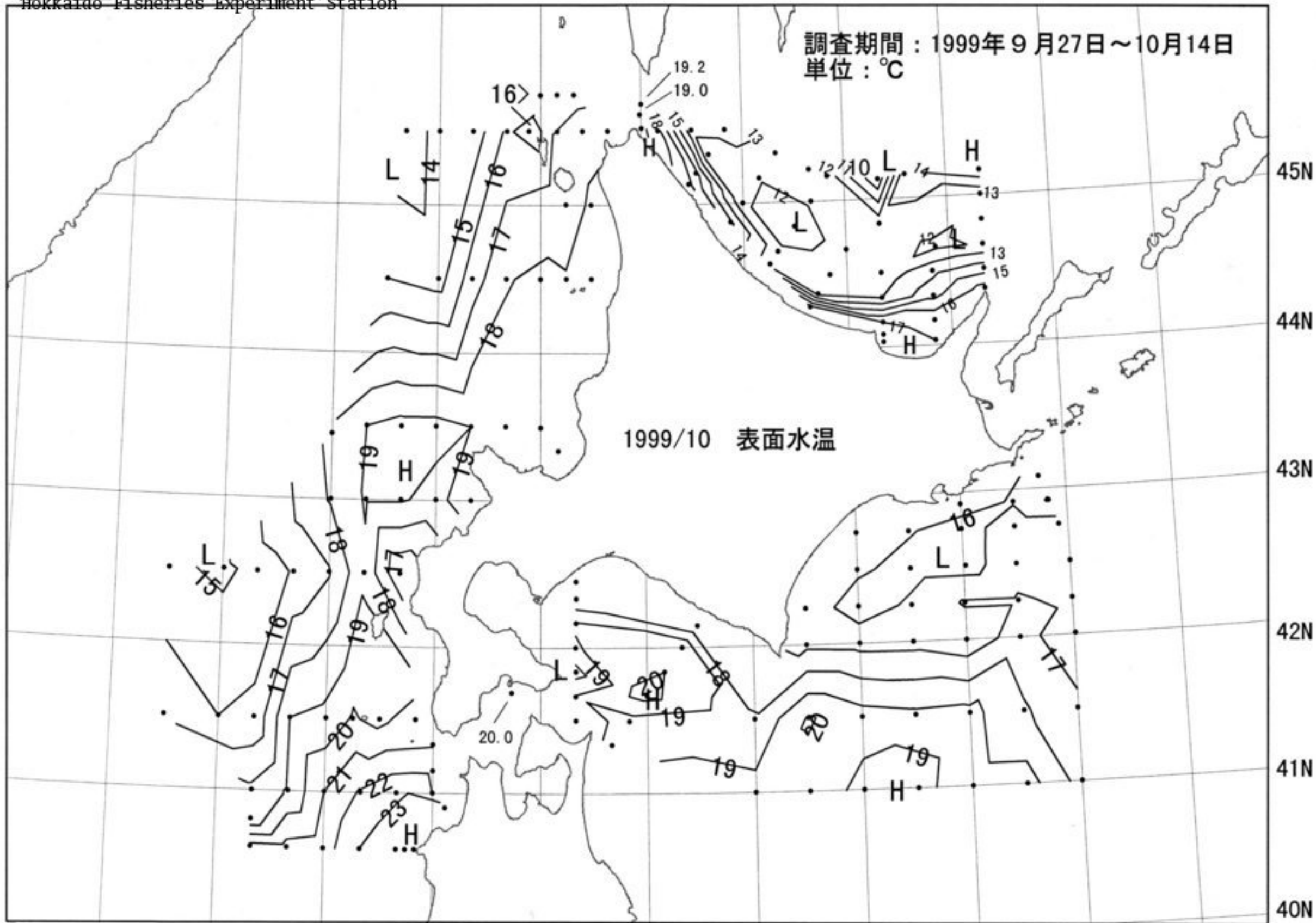
水温についてみると、もっとも岸よりの表面水温は、浜頓別沿岸部で17.3℃(累年平均比+0.4℃、前年比-0.2℃)、紋別沿岸部で12.4℃(累年平均比-3.6℃、前年比-3.5℃)、網走沿岸部で17.0℃(累年平均比+1.0℃、前年比-1.2℃)、知床岬沿岸部で16.4℃(累年平均比+0.9℃、前年比-0.1℃)となっています。もっとも岸よりの50m層水温は、浜頓別沿岸部で13.3℃(累年平均比-1.1℃、前年比-2.8℃)、紋別沿岸部で12.1℃(累年平均比-2.1℃、前年比-3.6℃)、網走沿岸部で15.4℃(累年平均比+1.2℃、前年比-0.4℃)、知床岬沿岸部で13.4℃(累年平均比+0.3℃、前年比-1.8℃)となっています。

資料	観測期間	
青森水試(青鵬丸)	平成11年9月28日から同9月29日	(東北日本海海域)
稚内水試(北洋丸)	平成11年9月27日から同9月30日	(オホーツク海海域)
釧路水試(北辰丸)	平成11年10月4日から同10月7日	(道東太平洋海域)
函館水試(金星丸)	平成11年10月4日から同10月5日	(道南太平洋海域)
中央水試(おやしお丸)	平成11年10月4日から同10月5日	(道西日本海海域)
中央水試(おやしお丸)	平成11年10月12日から同10月14日	(道北日本海海域)

*1:平成元年(1989)~平成10年(1998)までの平均値を使用しました。

*2:沿岸モードに対して、津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。

調査期間：1999年9月27日～10月14日
単位：℃



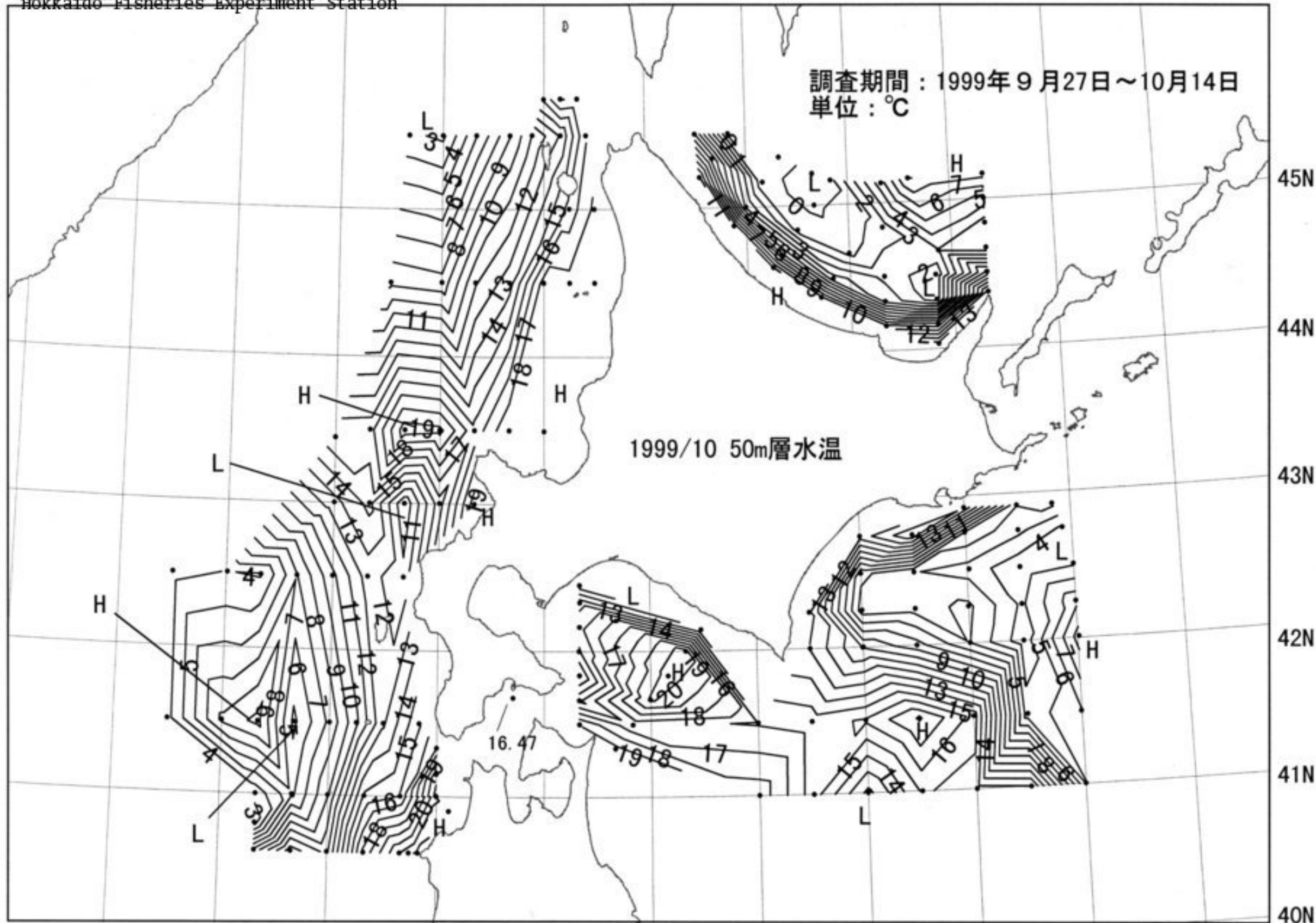
1999/10 表面水温

137E 138E 139E 140E 141E 142E 143E 144E 145E 146E 147E

45N
44N
43N
42N
41N
40N

調査期間：1999年9月27日～10月14日
単位：℃

1999/10 50m層水温

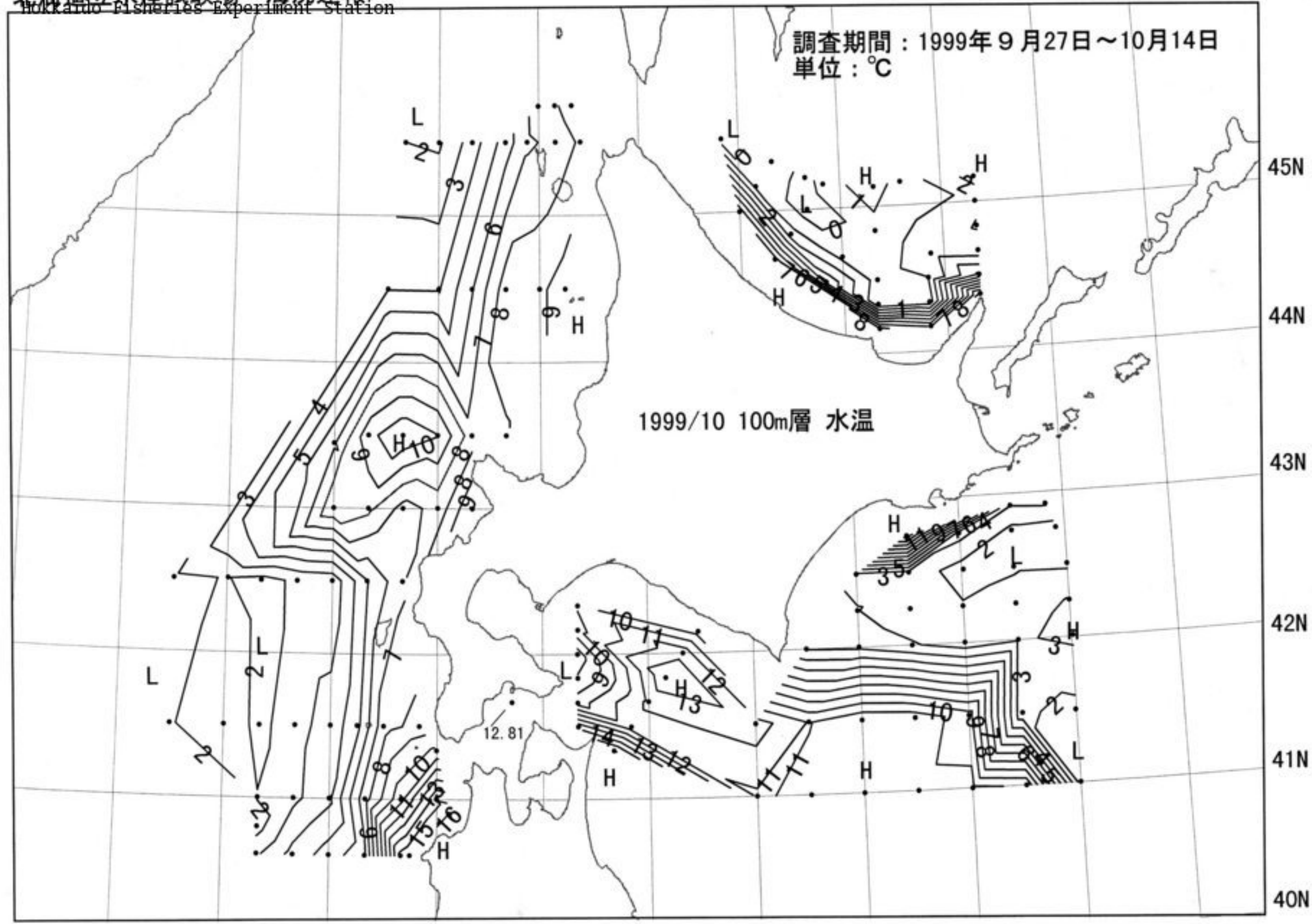


137E 138E 139E 140E 141E 142E 143E 144E 145E 146E 147E

45N
44N
43N
42N
41N
40N

調査期間：1999年9月27日～10月14日
単位：℃

1999/10 100m層 水温



137E 138E 139E 140E 141E 142E 143E 144E 145E 146E 147E

45N
44N
43N
42N
41N
40N

調査期間：1999年9月27日～10月14日
単位：℃

1999/10 200m層 水温

